

開発途上国における一プロジェクト

——エル・サルバドル

黒川 威人

はじめに

開発途上国（Developing Country：発展途上国）は今日、世界に於ける最も重大な関心事の一つであろう。だがその定義は、時事用語辞典⁽¹⁾によっても、さほど明確なものがあるわけではないが、との前置つきで「…一般に人口一人当りの所得水準が特に低く、産業別就業人口の構成で、農業の比重が工業のそれより圧倒的に大きい国を指している…」と意外にあいまいである。ただこれらの国は、政治的には独立していても経済の重要な側面では外国資本に従属しているなど、経済的には自立が困難であり、これに起因して国際的な南北問題が発生している事実は明確に指摘している。

これに対し、国連を始めとする国際協力諸機関は、先進諸国と共に様々の施策を行って来たし、又筆者の関わるインダストリアルデザイン界に於いても、ICSID（世界工業デザイン団体協議会）は早くから特別のワーキンググループを組むなど、高い関心が払われて来ている。

しかしこうした各界の努力にも関わらず、国際的な南北格差は一向に縮まったようには見えない。むしろ明日の世界に重くのしかかる暗雲となりつつあるのが現状ではあるまいか。

今迄の援助活動が全て間違いであったとは言えないが、事態は既に謙虚な反省と新たな方法論を要求しているとだけは言えるだろう。

ところで、開発途上国が先進国に対して要請する援助の内容は、従来の農業技術、土木技術、資金借款等の実利的なものから、教育、学術・芸術等のいわば文化的なものへとその比重が移って来ているように思われる。

これは援助努力等により、徐々に生活のレベルが向上して来ている事の表われと見る事も出来ようが、むしろ従来の実利主体の援助では、

ある程度の成果以上に、地域住民との摩擦や、環境破壊、独自性の喪失等、数字となって表われてこない面でのデメリットと共に、いかなる新技術といえども、それを受け入れるだけの社会的な素地なくしては長期的な意味での成果は上らない、と考へ始めた被援助国側の姿勢によるのではないかと思われる。

視点を変えれば、教育、学術等に先進諸国の今日の繁栄の基盤を読み取ったとも言えようし、又同じ人間として、やめて独自の文化（それぞれの国にも大なり小なり在ったものである）を香り高く咲かせ、例え貧しくとも胸を張って対等に付き合っ行って行きたい、との願望と見る事も出来よう。

いずれにしろ、こうした傾向はより健康的で好ましい姿であると考えるのは一人筆者だけではない。

中央アメリカにあるエル・サルバドル共和国はその意味で代表的な存在であろうが、本稿は機会あって、同国に於いて進行中の芸術教育に関するプロジェクトの一環である、芸術高等専門学校⁽²⁾（以下 ISA）の設立準備のために、一昨年（1976年）7月から3ヶ月間現地に派遣された筆者が、同国芸術高等学校教師らと行ったプランニングについて概説するものである。

今後の同様なプロジェクトに何らかの参考になれば幸いである。

（註）

（1）現代用語の基礎知識、自由国民社、1977年版

（2）Instituto 又は Escuela Superior de Artes.（仮称）

日本の高等専門学校とは異なり、高校を卒業して大学入学資格を有する者を対象としているので事実上の高等教育機関であり、大学と呼んで

も良いと思う。

(3) Instituto Nacional de Bachillerato en Artes.

この国唯一の芸術高等学校であるが、授業の半分は普通科の教科を行っており、卒業時の試験にパスすれば大学入学資格を得る事ができる。

1. プロジェクトの背景

さて本論に入る前に、今少しエル・サルバドルの概要と、同国に於いてこのプロジェクトが遂行されるに至った背景を述べておかねばならない。

エル・サルバドル共和国は、中央アメリカのほぼ中央に位置し、国の北及び東はホンジュラス、西はグアテマラに接し、南は太平洋に面している。国土面積は2万1千平方キロ余とわが国の四国をや、大きくした程度ながら、約4百万人⁽¹⁾という稠密な人口を抱えており、人口増加率も3%⁽²⁾と高い値を示している。地理的には熱帯に属しているが、⁽³⁾サバンナ気候であり、特に、表1に見られるように主都サン・サルバドルを始めとする北部、西部諸州は比較的高地のせいもあって(サン・サルバドルで海拔682m) 低湿型であり快適な気候条件である。

こうした自然条件は、ゆるやかな起伏の多いこの国の地形と相俟って、早くから農業依存型⁽⁴⁾の経済を形づくっていたであろう事は容易に想像がつく。しかし高い農業依存は、一旦天候異変等に見舞われると悲惨な結果を招く事は目に見えており、同国政府も近年は産業立国を目指す政策を強く進めて来ている。そしてその成果はある程度上って来ており、中米諸国中では現在最も工業化の進んだ国と目されている。

ちなみに総輸出(1974年4億6260万ドル)の半分近くは、今だにコーヒーが占めているが、工業加工品は30%を占めており、残る20%を綿花と砂糖が分け合っているという状況である。

この国の狭小な国土、稠密な人口、貧弱な資源を考えると、これは極めて妥当な政策といえよう。

一方、以上のような悪条件は、周りを外国に囲まれた弱小国という意識と共に、逆にサルバドル人に他のラテンアメリカ諸国以上の愛国心、団結心、及び労働に対する勤勉さをもたらしていると見られ、同国が工業化を進める上での大きな支えになっていると思われる。又国民の9割迄が白人とインディオの混血(メスティーソ)である事も人種のトラブルがなくプラスの要因となっている。

ところで、この国が他の途上国と極立って異なる点は、前章で若干ふれたように教育に対する熱心さであり、なかでも芸術教育に対するそれは特異な存在でさえある。

その具体例として、1969年2月にスタートした国立芸術高等学校がある。現在同校は、音楽、演劇・舞踊、造型美術の3つの部門を擁し、アカデミックな芸術教育を行っているが、さらに同校の実習教室の空き時間を活用した各種自由学校(Escuela libre)が市民のために開設されており、併せて国立芸術センターとして広く国民の芸術教育に寄与している。

又、初等教育(小学校6年と中学校3年を通した制度)のカリキュラムには芸術教育(Educación estética)という世界でも例を見ない科目が組み込まれているし、芸術センターには子供絵画教室さえ開設されている。

サンサルバドル市地方年間気温表

表 I

月 別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
温度(C)	最高	29.7	31.0	32.4	32.6	31.4	29.9	30.0	30.2	29.6	28.9	28.6	28.8
	平均	22.0	22.6	23.7	24.4	24.0	23.1	23.0	23.0	22.6	22.5	22.3	21.9
平均湿度(%)	62	62	63	68	75	81	79	80	84	80	71	66	
降雨量(mm)	3	3	9	60	169	278	332	293	330	219	41	7	

これは国民全体の就学率⁽⁶⁾を考えた場合、画期的な出来事であるし、又芸術高等学校が開校された年の7月には隣国ホンジュラスとの間に戦争を体験して大きな経済的打撃を受けている事、及びこの国とて他外ではない、その後の世界的不況の影響を考え併せると、その熱意の程を知るに十二分な出来事といわねばならない。

しかしながら、経済的にも人材的にも余裕はなく、その多くを国際金融機関からの借款や、先進諸国からの援助に頼って推進している点にこの国の特異さがあるといえよう。

さて、この芸術高等学校に対する熱心な援助要請を受けた、わが国の国際協力事業団は、関連組織である海外青年協力隊の隊員を派遣するなど、6年に渡って技術援助を続けて来たが、特に造型美術の部門に於いては、集中的で計画的な援助活動が実り、高等学校レベルに対する援助としては昨年度をもって一応の終止符が打たれた。

筆者が派遣されて遂行した本稿のプロジェクトは、1971年この芸術高等学校の組織計画のために同国に派遣された専門家、室靖氏（日本海外青年協力隊顧問：美術教育）が、現地で要請を受けて、更に上級の教育機関である芸術高等専門学校（ISA）の計画案を作成された時にその端を発している。

その後同氏の勧告案に基いて、現地人の教師達を視察員あるいは留学生として受け入れる等、様々の援助活動が行われて来ているが、筆者による今回のプロジェクトもその一端をなすものである。

なお、この芸術高等学校に対する援助が開始される3年前（1968年）には、同国初の体育師範学校設立のために、やはりわが国から、中南米を通じて初めての青年協力隊員が派遣され、組織化と教育を一手にまかされている等、同国からわが国に対する援助要請は、教育関係に大きなウェイトが置かれている。

その背景には、前に述べたように付け焼刃的な実利政策では真の進歩にはつながらない、とのこの国の為政者の深慮があるであろうが、わが国への集中的な要請は一体何に由来するので

あろうか。

一つには日本とエル・サドバドルの間に存在する各種の類似性によるところが大きいと思われる、事実サルバドル人は一般に親日的である。

だが、このプロジェクトに最も影響を与えた人物として、当時の文部大臣であったW・ベネケ氏の存在を見落す事は出来ない。氏は普通は50年かかるといわれた教育改革を、僅か5年でやってのけたといわれる程の有能な政治家であったが、単なる辣腕ではなく、国家の将来と、青年達の前途を心から思う熱血の知識人であった。

同氏の存在はサルバドルの若者達にとって幸せな事であったが、さらに氏が大の親日家・知日家でもあった事が、このような両国の関係に大いに影響を及ぼしていると思われる。

（註）

- （1）推定、1974年の統計局の発表では 3,886,775 人である。
- （2）1970年～74年の平均増加率。
- （3）北緯13度8分～14度24分。
- （4）スペイン人による侵略が行われる以前からマヤ族等の原住民が農耕生活を営んでいたし植民地時代以降は、輸出を目的とする商業的農業であるプランテーションが盛んに行なわれ、その傾向は未だに色濃く残っている。
- （5）この国のプランテーションの代表的なものはこのコーヒーであり、アシエンダと呼ばれるその農園は、俗に14家族といわれる極く小数の富豪によって支配されている。
- （6）文盲と初等教育のみの者は併せて国民の半数近くを占める。

2. プロジェクトの内容

2-1 K J法採用⁽¹⁾の理由と方法

筆者の任務は、外務省を通じて寄せられた要請状によれば、2年間に渡り、国立芸術センターに於いて新設予定のISAに関し、工業デザイン部門の

- (1)プランニングとカリキュラムの作成
- (2)アシスタントの養成
- (3)1976年を通じたISAでの教育

となっていたが、これに対する着任時の状況は実際には次のようであった。

(1)筆者サイドの都合により、任期が三ヶ月に限定されたこと。

(2)現地文部省当局からは新たに民芸 (Artesanal) の振興策を依頼されたこと。

(3)政治状況の変化により、予定通りにISAが開校される見込がないこと。しかし教育現場では強く要望されていること。

以上のかなりな状況の変化に加えて、予定の行動であった一ヶ月の探険を終えたにもかかわらず、日本からの機材が何時になったら到着するのか不明であったこと、などにより、当初予定していた行動のうち機材を使つての実習は断念し、全ての要素をより総合的に把握し、一連の問題解決に導く手法としてKJ法によるプランニングを行う事とした。

実施に当っては一応三ヶ月間の目標として、

(1)実行を通して現地教師陣にKJ法を体得させること

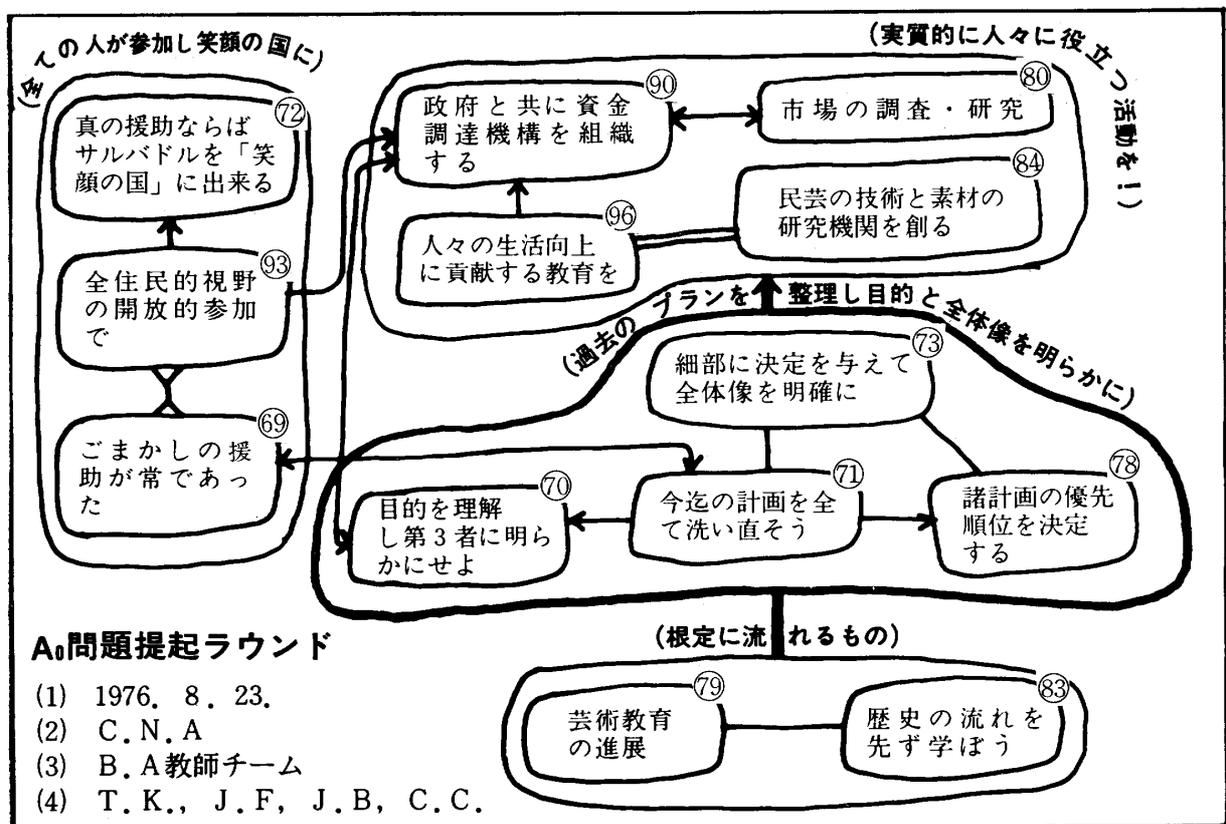
(2)文部省当局に対しては、このプランニング

の提示を通して、芸術教育 (デザイン教育を含む) の意義を再認識させる事。

以上の2点を主眼とした。さらに具体的方法としては、芸術高等学校の主だった教師数名によるチームワークとし、毎週土・日をこのチームの活動の日にあてた。これは彼らの通常の講義に支障を来さない配慮であり、同時に西語に不慣れな筆者がウィークデーを利用して西語資料の翻訳、日本語資料の西語訳にあてるためであり、さらにはメンバーが各種資料を集めて来るための程良いインターバルでもあった。

なお事前の説明は、日本語の比較的良く解る一部の教師に集中的に行ない、チームワークはなるべく西語のみでスムーズに運ぶように心がけた。

以下にプランニングの内容を紹介するが、今回は現地文部省への答申を一つの実施ラウンドと仮定し、プロセスを都合6ラウンドに区切ってKJ法を試みた。以下順を追って解説する。ほとんどの記述はインデックス図解を文章化したものであるが、内容が舌足らずな場合等特に



(1)日付 (2)場所：C. N. Aは芸術センター (3)出所 (4)作者：T. Kは筆者

筆者が付け加えた部分は () で示してある。又原文は全て西語であるが、言語習慣の違いを考慮してかなりの意識をした。正確には資料欄の西語原文を参照されたい。文中肩に付した④は対応する西語原文の④である。なお、全ての細部図解とそのB型(文章化したもの)は都合により割愛した。

2-2 問題提起ラウンド(A₀図)

ISAのプロジェクトのプランニングを始める前に、それを社会の歴史の流れの中で理解する必要があり、我々は先ずサルバドル国民の歴史、経済、政治、社会の勉強をせねばならない。^③

(とはいえ、今問題提起しているのはISAの設立に関する事であり、様々な問題をはらんでいる)サルバドルに於ける芸術教育の進展^③(に関する事であると言えよう。)

(さて一步を踏み出すとして)今迄に作られた芸術の高等レベルのセンター又はISAの設立に関する全ての計画を調べ^①、計画された諸プロジェクトの優先順位を(あらためて)決定するという作業がある^③。ただ、我々が行う事の目的又は目標を、誰れにも説明できるように各人が理解していなければならない事は言う迄もない。

(その上で浮かび上って来た)プロジェクトの個々の部分をしっかりと見定め、全体像を明らかにするために、夫々の部分に決定を下す^③(という事になろう。)

(ではISAの目標とは一体何なのか)そこでは国民にとって本当に必要な物を生み出し、人々の生活状況を改善するのに貢献するような教育が求められるだろう。そのためには(現在の様に絵具とアトリエだけというのではなく)何らかの生産活動のための機械設備といったものも必要となって来るだろう^④。(例えば)研究機関として、民芸の技術や素材を研究する工房を作る事(が考えられるが)これは後に出来るだろう他の諸工房にとっての基礎となる筈である^④。

(当然予想されるのは予算の問題であるが、)ISA経営のためには、政府と芸術センター及び、その卒業生達を中心に、これに賛同するその他の団体を加えた資金調達機構を作る^④(必要があ

るだろう。)市場の調査・研究^④(は資金調達を円滑に行うためにも必要となって来よう。)

(ひるがえって)サルバドルに於ては、常に問題を解決するために行われる筈のプロジェクトが人による人の搾取のための仮面であって、真の意味の救済でもなければ、協力でもなかった^④。

全住民的立場の広い視野を持って、国が全ての当事者を自由に参加させ^④(そしてその結果)人々がごまかしでない真の助けを受けるなら、サルバドルを“笑顔で満ちた国”とする事が出来るだろう^④。

以上が第1ラウンドで得られた図解のまとめであるが、不慣れのせいと説明不足(語学の壁もある)であまりスッキリとした図解にはならなかった。しかし基本的な問題点はこの図解でもかなりうかがい知る事は出来よう。

なおこの図解は数十枚のカードを基に作成したが、掲載のインデックス図に至るまでに、3段階のタイトル付けの作業を行っている。図中及び文中の肩に付した④はタイトルを含む全カードの通しナンバーである。

インデックス図作成後、直ちに壁面一杯の細部図解を作成し、その後の討議のための材料としたが、これは非常に効果があって、新たな意見が続々と出て来た。

それらは全てカードに書きとめ、細部図解中の適当と思われる場所に順次押しピンで留めて行ったが、やがて飽和状態となったので、インデックス図のみ残し、全てのカードを投入した新しい図解を作る事とした。

これはやがて現状把握ラウンドの図解を形成する事となる。なおこれに伴って一枚のカード中に相反する2種以上の事項を記入したものは、別々に記し、全く同様の意見は一枚のカードにまとめる等の予備作業を行っている。

又過去のプラン、あるいは書物からの抜萃、識者の意見等もこの段階で投入した。

(註)

(1) 川喜田二郎著、「発想法」「続発想法」による。中公新書。

研究をせねばならない^⑥

(以上全てはISAを作るための基本であって) ISAの入学資格者は誰れか? とかその必要条件^⑤、あるいは学校として芸術優先か、産業優先か^②といった問題は(以上のような基本的な諸点が推進される過程で必然的に決まってくる事である)

以上がA₁図から得られた内容である。

ここで問題の焦点を絞るために、A₁図の中の6つの島(小グループ)に関し、どの島が最も重要であるかの評価付けを行った。方法はメンバー夫々に15点を与え、最も重要と思われる島から順に5点、4点…1点を付与したものを投票させ、集計するという方法によった。

結果はaの島が最重要という事になり、本質追求ラウンドはこの点を中心に展開する事となった。参考までに6つの島の順位は、a e c b f dであった。

なお投票による評価づけはこのラウンドに限り行った。その他のラウンドは焦点がはっきりしており、ほとんどこのような操作を必要としなかったからである。又このラウンドからはメ

ンバーの全員がインデックス図解を作る事とし、その中から最も適切と思われるものを投票によって選ぶ方法を取った。

(註)

(1) Bachiller en Artes. 芸術高等学校卒業時に、所定の試験をパスした者の事で、必ずしも大学卒を意味しない。

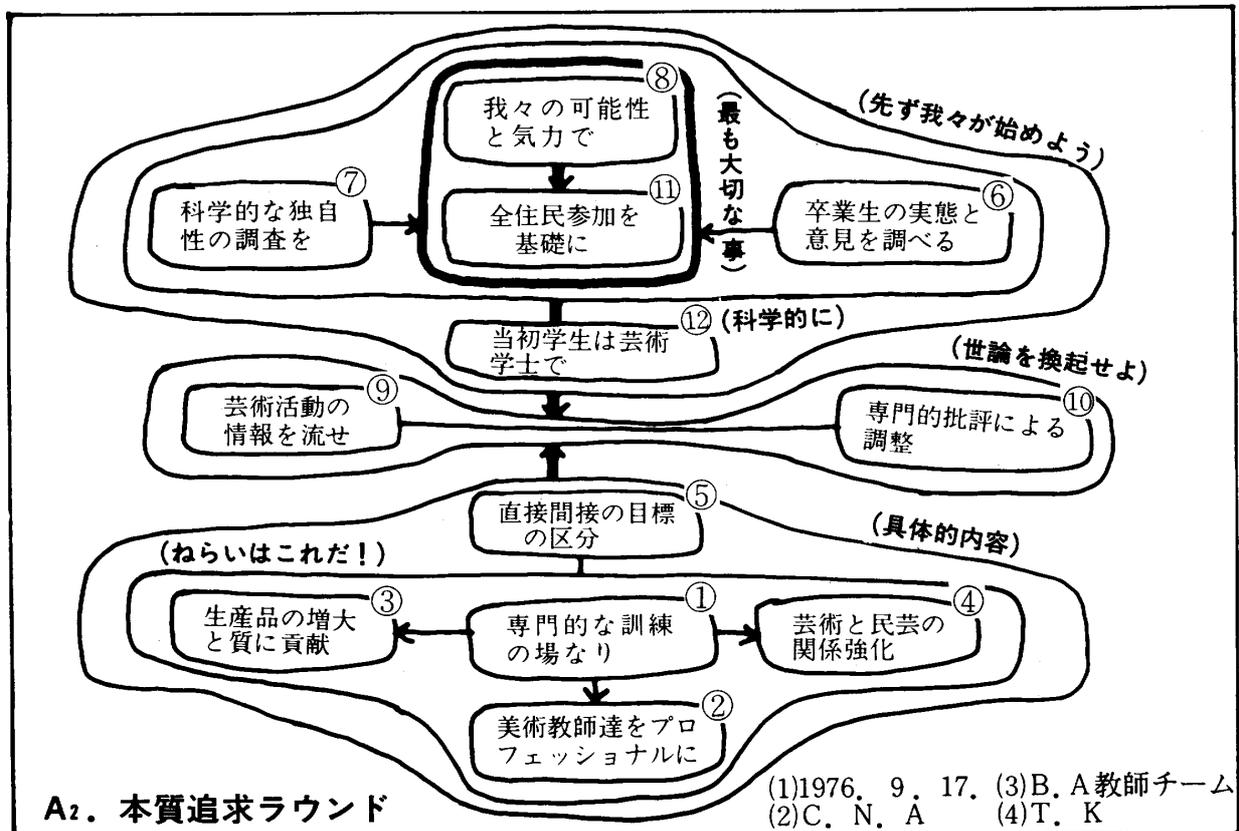
2-4 本質追求ラウンド (A₂図)

ISAはこの国の前例のようでなく、経験に則った真に達成できる計画として、我々の気力と可能性によって出発しなければならない^⑧

そして芸術・文化と経済・社会の進展に根拠を置いた、全住民参加の大衆的レベルによって、大衆のために基礎を置くのでなければならない^⑩

ISAは又科学的な研究に基礎を置く、特別の研究機関を置く事によって、先ず真に価値ある国民の独自性の調査を行い、そして後に普遍的レベルの我々の文化の完成を求める事になるだろう^⑦

一方芸術高等学校の卒業生達が、社会に於て



どのような仕事を、どのように実行しているのか、詳しく調査して見なければならない。そして彼らがISAに関してどのような意見を持っているのかを知らねばならない^⑥。(芸術教育が社会にどれだけ浸透しているのか、人々が一体芸術に何を求めているのか、等大衆レベルの貴重な情報の手掛りは先ずここから始める事となろう。)

ともあれ、ISAの最初の学生は芸術高等学校の卒業生達であって良いだろう。しかしその後は広く能力ある人達に門戸を開放して行かねばならない。現在の芸術高等学校の立場と位置は、ISAの基礎を支えるものとして、さらに重要なものとなるだろう^⑦。

(ISAの主たる任務は何であろうか) すぐにすべき事と後にすべき事を明確にして出発する^⑧のは当然として、明らかな任務の一つは、あらゆる種類の芸術の専門家を養成するセンターとなる事であり^①、芸術センターの教師達や、主に初等教育の分野の教育に実際に影響を及ぼしている全国の美学の教師達を、より専門的な指導が出来るように訓練する事であろう^②。

又、ISAは工業デザイン工房又は工芸工房を置く事によって、製品の質と技術の向上をもたらす生産の増大に貢献する事になるであろうし^③、一方では美的研究によって、芸術とものの働きを明らかにするだろう。そして現存の両者の関係を、より強固なものとするだろう^④。

(こうしたダイナミックな活動は、ここから巣立って行く卒業生達によって、全国の創造教育レベルを高めて行く事になるであろう。同時に実践的な研究活動は、この国の民芸の発展を促し、さらには民芸のための一次素材作りは、農業の進展をも促す事につながって行く⁽¹⁾。)

(最後に大切な問題として) ISAは内外で行われている芸術・文化の動向を可能な限りの情報媒体を使って国民に知らせるという任務を負っている。これはこの国の芸術の進展上欠かす事の出来ない住民参加の醸成に役立つ筈である^⑤。

又この国の独自性に基礎を置いたISAの諸活動は、専門の批評家による批判と、専門助言者(Asesor)⁽²⁾の意見による調整を受けねばなる

まい^⑩。(これは普遍的な文化の完成には大切な事であり、又芸術を真に国民大衆のものとするためにも忘れてはならない事柄である。)

以上が第3ラウンドで得られた図解の内容である。中にはいくつかの調査すべき事項も浮かび上って来てはいるが、これらは今後平行して作業を進める事とし、この図解が問題の本質についているかどうかの討議を行った。その結果全員がこの図解の出来栄に満足の意を表したので、これを本質追求ラウンドとし、この図解の範囲で仮説を求める事とした。なお図中最重点の島は、一致して⑧-⑩の島であったので仮説はここを基本に立てる事となった。

(註)

- (1) こうしたいわば三段論法的な発想は、途中我々の仕事を見に来た文化局長からもたらされた政府の、新しい政策の方向(農・工業重視)に影響を受けている。
- (2) 例えば筆者のような立場の者を指す。

2-5 仮説の採択と構想

本質追求ラウンドで得られた内容のうち、最重点と見られる島を基本に仮説を求めた。特に文章によって決したわけではなく、討論のうちに一致点を見出したが、要約すれば以下のようになる。

「ISAは我々の可能性と固有の努力によって出発し建設されるべきである。

そして大衆の中に基盤を求め、大衆のための様々な活動を行う事によって、我々自身の能力を高めながら国民各層に、芸術に対する理解を増して行かねばならない。」

続いてその活動の場として「我々の手でデザインの工房を作ろう」がスローガンとして出され、TEDI(Taller Experimental de Diseño Integral: 実験総合デザイン工房)と命名された。

又その活動方向を示唆するキャンペーンとして「サルバドル人によるサルバドル人のためのデザイン」が出され採択された。

こうした構想の基本に流れているのは、彼らサルバドル人の、自国の文化と伝統に対する誇

りであり、借りものの文化ではない独自性 (Identity) の形成にかける熱意であろうが、この傾向は次のラウンドでさらに具体的に示される事となる。

2-6 構想計画と具体策ラウンド (A3 図)

(TEDIの内容は何か、先ず具体的な研究内容でいえば) 一つには一次素材の研究で、現在使用されていない素材を利用の方向で検討し(試作など) 製品に使用できる可能性を増大する^②。これは外国のデザインのコピーではない、この国独自の新しい製品モデルを創造する上で必要な研究であり、民芸産地の振興など、この国固有のさし迫った要請に応える事でもある^④。

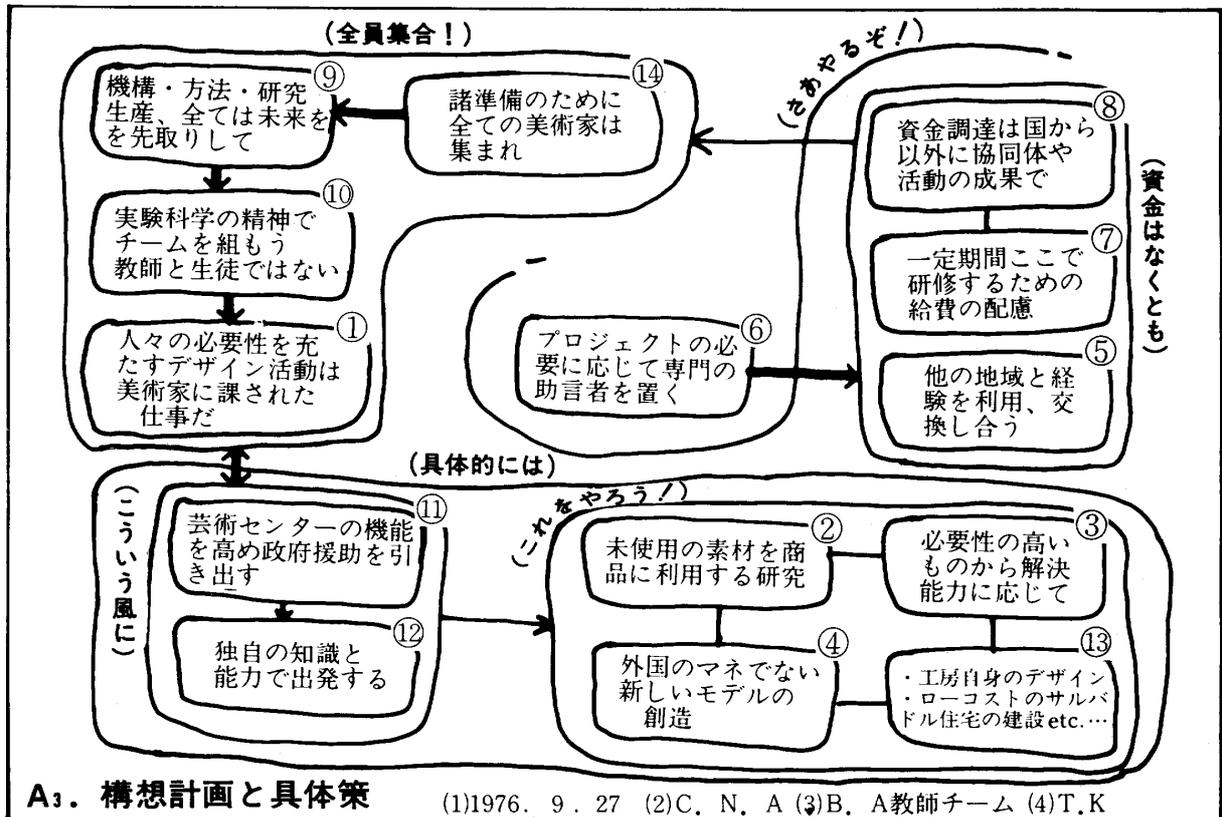
又プロジェクトとしては、この工房自身の建物を設計する事や、ローコストのサルバドル人住宅を、この国の材料のみを使って建てて見る事などが考えられる。その他道具類のデザイン(は民芸品の加工を研究する過程で必然的に出てくるであろうし、インディオが昔造っていた)手漉の紙(を再現して見るのも、材料が現在豊富にあるだけに面白い)^③。

(態度として) TEDI は地方に於いて生産される実用品や、民芸品、芸術品工業製品の国レベルでの必要性の高い問題をとらえるアンテナのような役割を持ち、デザインを通して適切に問題解決を計り、その美的品質と実用性、経済性を改良する。又活動は、必要性の高い順から、我々の解決能力に応じて計画される事になるだろう。

(以上のようなTEDIの活動は) この国の様々の工房の基礎となり、さらにはISAのためのダイナミックな基礎となるであろう^③。

TEDIは視点を変えれば、ISAのプロジェクトの規準であり部分なのである。従って現在の芸術高等学校とは当然密接なつながりを持つであろうし、それは芸術センターの機能を増強するという事でもある。つまりTEDIの意義は全てここへ帰ってくるという事であり、ここでの成果が(結局は)政府援助つまり認可を可能にするだろう^①。

(ここで留意すべきは) この工房はあくまで実験的な精神に則ったものであり、我々の持っている知識と能力を基礎として出発するという



事である。(従って当初)ここで活動するスタッフは、芸術高等学校卒業後、少なくとも1年間教育者あるいは専門家としての活動経験を有した者、又は給費留学を終えて帰国した者等(に限られよう)。そして彼らの実践と訓練の場となる。

しかし例えば、芸術高等学校の卒業制作時には必要に応じて3年生に使用を認める事も考慮されて良い¹²⁾。

さて諸準備を進める上で、考慮し明らかにしておかねばならない具体的な問題はまだいくつかある。TEDIの活動時期、個々のプロジェクトの目的、必要性の判断基準、結果の検証方法、反響の検査等、全ては新しいプロジェクトのための基礎であり、造型美術の教師達はその準備に参加せねばならない¹³⁾。

又、誰れが、何人、どのような資格で、又どのような条件で働くのか、その組織はいかにあるべきか、等々様々な問題があるが、いずれにしろTEDIは機構、方法、研究、生産の全てに渡って新しい、この国における未来の方向を示すものでなければならぬ¹⁴⁾。

又活動が実験的で科学的な研究に基礎を置いているので、その機構も、スタッフは教師と学生という関係ではなく、相互に学び合うという一体となった(チームの)姿を取る事にならう¹⁵⁾。

(以上のような)TEDIに於けるデザイン実践は、サルバドル人の必要性を、出来るだけ良い方法で満足させる事に基本的理念を置くが、それはサルバドルに於いて芸術が果す事の出来る行為としてのTEDIからの一つの提案である¹⁶⁾。

TEDIの資金調達は、国の予算配当によるか又は、工房の要素である協同体としての資金や、工房が依頼されて協力して行う実験の収入によってあてられる事ができる。

我々は野外での調査に必要な不可欠のものとして一台のピックアップ車又はトラックの取得を考えているが、これも資金問題として考慮しておかねばならない¹⁷⁾。

スタッフの給費であるが、これは当初芸術高等学校その他で働いている教師達が対象となる関係上、一年を下まわらない一定期間現職を離

れる事になるが、人材養成一つまり後にISAで働くため一のたてまえからして、当然配慮しておかねばならない。その場合給費の援助をしてくれる可能性のある国は、フランス、イタリアー日本、オランダ等である¹⁸⁾。

活動の実効を上げて行くためには又、同様なプロジェクトを行っている内外の諸機関の経験を参考にし、あるいは情報を交換し合う事が考えられるが、そのための見学旅行をメキシコ、中米、パナマの地域で先ず行いたい¹⁹⁾。

(以上がTEDIの当面の活動のあらましであるが、未だ我々のみで実施できるプロジェクトというのは少ないと見なければならぬ。)当面TEDIはスタッフの能力と認識のレベルを高めるために専門的な助言者団(委員会)を置く事としたい。担し彼らは個々のプロジェクト本来の必要性によって決定され、選ばれるものとする。

そして出来れば、最初は中央アメリカあるいはラテンアメリカ地域のサルバドル人で、そして後にヨーロッパ、アジア…という順でありたい²⁰⁾。

以上が構想と具体策の抽出を目指して実施した第5ラウンドの内容である。

ここに至ってほぼ全ての問題と構想が網羅されたといつて良い。具体策は未決定のものが多いが、その根底に流れる理念は明瞭なので、これらは今後の彼ら自身の活動に委ねる事とした。

なお全ての図解はこのラウンド終了後、タイプで打ち直し、壁面に張り出されたので、我々自身の確認のみならず、第3者への提示が容易になった。

購送機材の贈呈式のため芸術センターを訪れた文部大臣に対しても、この図を使って経過説明がなされている。

2-7 実施準備ラウンド(Plan general図)

本来ここでは、全ての事項を投入したPERTを作成し、役割分担から必要資金の算出まで行うべきであろうが、時間的制約と、文部省への提示を実施のための最終関門として設定した関係上、大まかなタイムスケジュールと行動予定

〔Ⅰ〕1969年に芸術高等学校が開設されて以来今日迄の教育を、より専門的な芸術活動のたをゼネラルプランとして組立てるにとどめた。以下にこれを順を追って解説する。

めの基礎レベルであると捉える。そして専門レベルの教育・研究を行うための機関であるISAが創立される時点の一つの目標点と考え、その間の手続きを何段階かに区切って見た。

1976年を境に高等レベルと示してあるのは芸術高等学校の教師達が、筆者の着任を機会に、独自に高等レベルに匹敵する活動を開始した事を意味している。

〔Ⅱ〕芸術高等学校の教師達は、今でも教育という分野に於ける専門家と見なす事も無論できるが、自らが受けた教育を応用して、独自の芸術活動を展開するということ迄は行っていない。

しかし造型美術部門の教師30名のうち、既に三割近くが外国留学経験者であり、筆者の目で見ても、自立した研究活動に入るだけの識見・力量を持っている事は明らかである。

高等レベルが基礎レベルと際立って異なるのは研究活動が行われる事であり、その意味で、文字通りの高等教育機関であるISAは設立をただ待つのではなく彼らの力量と熱意とによって、実質的に始めるべきであり、今回のKJ法による一連のプランニングは実質的な高等レベルの活動開始とあって良いだろう。

〔Ⅲ〕とはいえ、現状のスタッフだけでこなせるプロジェクトというのは、未だ少ないと見なければならぬし、大局的見地から活動の方向をサジェストできる人材も又必要と思われる。

とりあえずは国内の学者等を、専門委員として正式に委嘱する事が必要である。

外国から助言者としての専門家を招請する場合は、その在任中にどんなプロジェクトを取り上げるのかによってその任期、人材（専門分野）が選択されねばならない。

〔Ⅳ〕現有30名の造型美術の教師団を6つのチームに分け、交替で研究に専念できるよう配慮した。

6人とはそのリーダーの事であり、今回実践

したKJ法などを通じてグループワークを推進できるよう訓練する。期間は事前に周到な打合せがなされた後、3日～1週間程度、できれば合宿で行いたい。

ここでは後の活動計画も具体化され、文部省当局の承認を得るための最終的なプランが作成される。

〔TEDI〕文部省当局の認可を待って実際に活動が開始される。当初活動は夏休中（11月下旬～1月末）となろうが、実質50日は取る事が可能であろう。

今年度の担当となった幾チームかのメンバーは夫々休暇中のスケジュールを、この工房のためのプランに合わせねばならない。

活動結果は、途中のプロセスと共に必ず、各種マスメディア、展覧会等を通じて社会に発表する事が義務づけられる。

こうして研究成果と社会の反響をふまえながら次々と新たなプロジェクトに取り組んで行く事が、スタッフの経験を増し、能力を高めると同時に世論をも喚起して行く事になるであろう。

〔ISA〕

スタッフの能力、識見が高まり、人材も豊富になり、社会での芸術に対する認識が深まったと思われる段階で、正式にISAの設立が申請される。

無論、国の経済的状況、政治的状況によっては楽観は許されないが、真に意義の認められるプロジェクトに対し、芸術教育に理解のある政府が援助を惜しむ事はまずあるまい。

ISA設立後のTEDIはどうなるか。TEDIはあく迄実験工房である。従って大学教育というアカデミックな場では実行できない事をこそ実験して見る未来指向の研究所として残すべきであろう。そしてここで試された実験研究の成果が、教育の現場へと環元されて行く事になる。

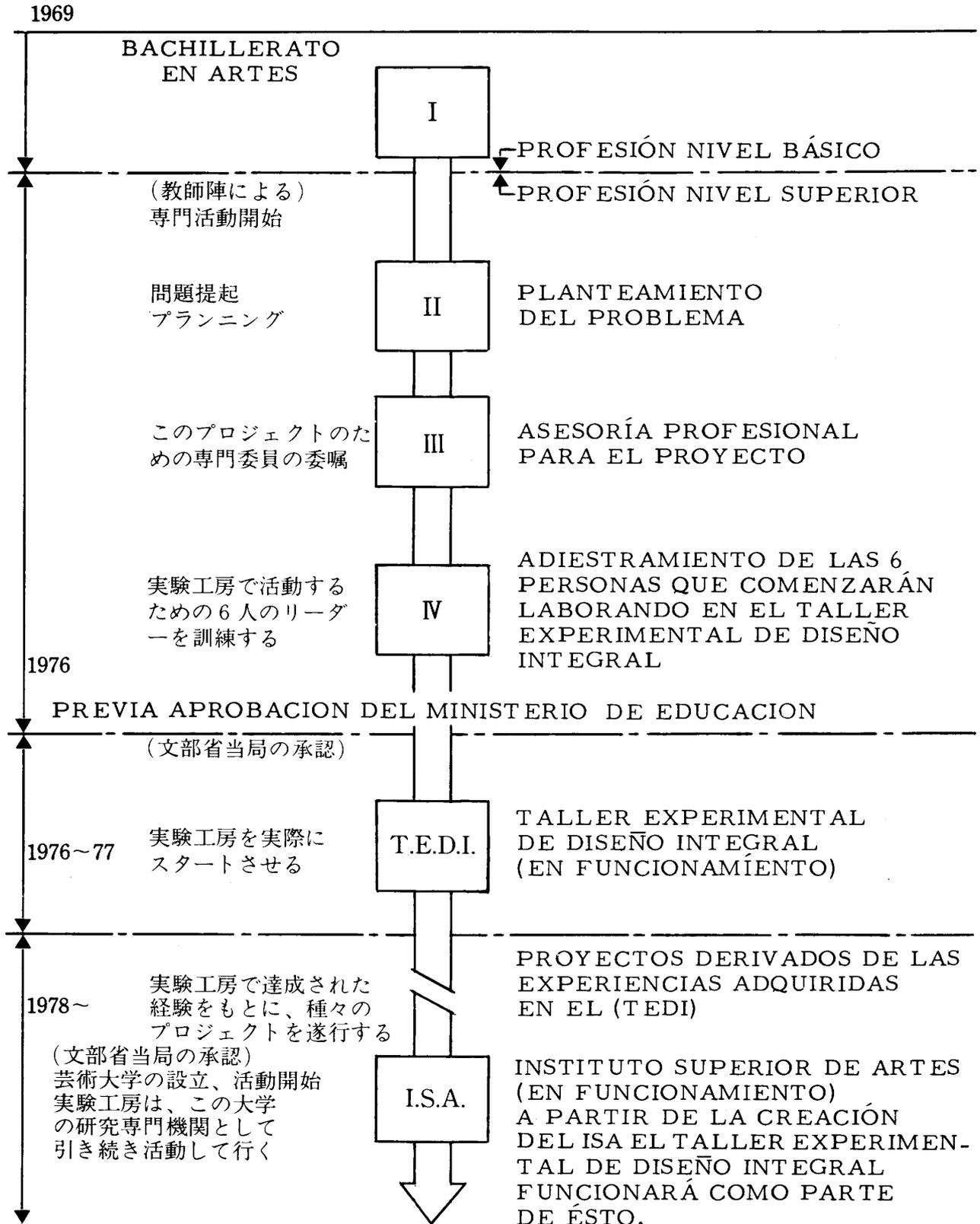
又、大学における美術が対社会に果す役割の窓口、あるいはセンターとして、若い教育者、芸術家、職人達の交流の場となり、再教育の場ともなる筈である。

当初の理念が生き続ける限り。

PLAN GENERAL

21, Sep. '76

PROCESO SEGUIDO PARA LLEGAR A LA REALIZACIÓN DEL ISA.
(ISA実現化に至るまでのプロセス)



3. 結果と考察

本稿に於いては、事実上の結果は前章のプランニングそのものなのであるが、現地文部省への提示を一つの実施、検証ラウンドと仮定した関係上、以下に文部省での提示の結果を記し併せて若干の考察を加えておきたい。

帰国の三日前、9月28日に文部省で報告会が持たれた。出席者は、文部省側は次官、文化総局長、文化局長の三名、プロジェクト側は筆者の他は造型美術部門の正副部長の二人（共に今回のプロジェクトの推進者）であった。

次官は多忙のため、会談は一時間と限定されたがこれは本プロジェクトの内容を完全に理解してもらうためには余りに短時間であった。

予定を30分近く超過したところで、次官は失礼を詫び、席を立ったが、建築家であり、プランナーでもあるといわれる同次官が残した感想は次のようなものである。

1. 当国の教師達と一緒にプランニングを進められた事に対して先ず敬意を表する。

2. プランニングの方法はこれだけではない。途中間違いに気付いたら、何時でも方法を選び直さねばならない。

3. 研究活動というのは、様々の分野で研究スタッフの得られる先進諸国でならばともかく、人材の不足している我国では困難な事だと思う。

以上の3点であるが、1については一定の評価の弁と見て、2,3.について若干の意見を述べて見たい。

先ず2.に関して、KJはいわゆるプランニングの方法ではないし、この方法によって結論が間違ったり、狭く限定されるという事はない。

むしろプランニングの前提条件となる諸問題をダイレクトに現場から引き出し、あまねく広く、柔軟に発想を展開できる点に特長がある。

確かに、実施及び実施準備に於けるプランニング法は幾通りもあって、いずれを選ぶべきかは、その時の条件によろう。その点に関しては異論はない。ただ、筆者がこの方法を是としたわけは、創案者川喜多氏の言葉を借りるならば、参画社会形成のための方法、という事である。

サルバドルに於ける唯一至上の資源である、

人的資源を生かす道はこれに尽きるのではあるまいか。

さて第3点であるが、これも前の点と関わっている。つまり方法とは常に意志の後に来るものであって、方法（プラン）が意志を決定すべきものではないという事である。

ここでは若手教師達の熱意をいかに受けとめ、エネルギーとするかをこそ考えねばならぬ。

実験に研究者が必要なのはわかる。しかし研究者の不足という与条件に対し、だから何も出来ないと考えるか、だからこそ研究者を養成しなければと考えるかは意志の問題である。

我々は次官退席後も、引き続き文部省にとどまって会議を続けた。局長は一週間前に我々の仕事を見に来ており、十分にこの案に理解を示していた。又文化総局長はこのプランの中身に大層興味を示し是非実行して見たいとの意向であった。

彼も又若者であり（推定27才）そしてV・パ

パネック教授を知っていた事も我々に幸いした。この国の教育に対する熱意は失せてはいなかったと着任以来の苦勞に始めて光明がさした思いであった。

振り返って見ると、着任前の予想にくらべ、現地での状況は教育や芸術に対して決して理解あるといえるものではなかったが、これはW・ベネケ元文部大臣の政界引退、及び翌年度に大統領選挙をひかえ専ら実利政策での論争が展開されていた事等が主な原因であったように思われる。

そして若い研究者、芸術家が育って来ている現在、この国に於ける芸術教育の進展が途絶えるような事は決してあるまいと筆者は確信している。

なおKJ法によるプランニングは、現地人スタッフにとって次の点で有益であったと思われる。

(1)依頼心が薄らぎ、自立して芸術活動を実践する気構えが出来たこと。

(2)自らの国に対する愛着と認識が深まった事。

(3)チームワークを通じて参加する事の楽しさと重要性を知った事。

(註)

(1) 氏の著書「生きのびるためのデザイン」にも、我々はいくつかの啓示を受けた。

おわりに

開発途上国に対する援助活動はいかにあるべきか、又これらの国に於いて芸術教育を行うには、いかなる問題が介在しているのか。

この困難な問に対し、本稿は途上国の一つであるエル・サルバドルに於いて援助活動を行う機会を得た筆者が、現地の美術教師らと遂行した、KJ法によるプランニングを通して考察し、手掛りを求めたものである。

筆者はインダストリアルデザイン研究者の立場から、現在先進工業国に於いて駆使されている、デザインのための諸手法が、既に飽和状態にある物社会に於いてよりも、開発途上の国々に於いてこそ発揮されるべき時に来ているのではないか、と考へて来た。

デザインという行為が持つインターディシプリナリーな性格は、様々の局面で未分化なこれらの国に於いてこそ、そして局部的な諸技術が導入される以前に適応されてこそ意味があり、後々の効果も高いのではないか、と考へるからである。

その意味で、こうした国の一つから望まれて活動を行う機会を得た筆者は、まことに幸運であったと言わねばならない。

とは言え、今回のプロジェクトが先に述べた問に対し、真に適切な解となり得たのかどうか、甚だ疑問であるし、又結論の出せる段階でもない。

長い眼で本プロジェクトの行末を見守りたいと思う。

なお筆者の不勉強のせいで、西語の訳は不適切な部分が多々ある、又プロセスに於いても不備な点が多く荒削りなまとめとなってしまったが、これらに関しては、お詫びと共に今後識者からの御指摘を待ちたい。

なお本稿は、昨年(1977年)11月、日本デザイン学会第24回大会で発表したものと同一の内容であり、その詳細をなすものである事を記し

ておく。

最後に、出発前の準備でアドバイスを頂くなどお世話になった、築波大学の高山正喜教授及び東京芸術大学の恩師小池岩太郎教授はじめ平松保城助教授他の方々に心から感謝の意を捧げたい。

又プロジェクト遂行に当っては、多くの方々に御協力頂いた。ここに厚く御礼申し上げる。

69

En El Salvador siempre que se han hecho proyectos para solucionar los problemas han sido una máscara de la explotación del hombre por el hombre y no de autentica ayuda y cooperación.

70

Antes que nada tenemos que comprender el objetivo o propósito de lo que hacemos, si lo tenemos podemos persuadir a cualquier persona.

71

Estudiar todos los ante proyectos que se hayan elaborado hasta ahora, sobre la fundación del I. S. A. u otro Centro a nivel Superior sobre Artes.

72

La gente salvadoreña si recibe ayuda auténtica y no es engañada, es capaz de hacer real lo de que El Salvador es el "país de la sonrisa".

73

Observacion precisa de cada etapa del proyecto y sus determinaciones para una claridad en su totalidad.

78

Determinación de prioridades en cuanto a los proyectos planteades.

79

Desarrollo en la educación artística en El Salvador.

80

Investigación de mercados.

83

Como la necesidad de comprender el (I. S. A.) dentro de la evolución histórico social antes de plantear el proyecto debemos hacer un estudio histórico, económico, político y social del pueblo salvadoreño.

84

Creación de talleres .o centro generador de otras células artesanales para tecnificarlos y promover la investigación de materiales, por medio de una unidad de investigación. Estos talleres serian la base para otros talleres.

90

Organización del financiamiento económico administrativo del I. S. A. con el Gobierno, el Centro de Artes y sus egresados y otros organismos que contribuyan a este.

93

Participación abierta de todos con una visión amplia en función de la comunidad, revalorizando lo nacional.

96

El I. S. A. deberá producir objetos realmente necesarios e impartir una educación que contribuya a mejorar las condiciones de vida de la gente. Para esto necesitamos algún tipo de maquinaria que pueda fabricarse.

Al.

1

Clarificar objetivos para la creación del I. S. A. u otro tipo de institución o taller cooperativa para poder persuadir a cualquier persona

1. 1

Prioridad?

Creación de

- . I. S. A.
- . Instituto de investigación de materiales.
- . Centro de rescate y fomento artesanal y Arte popular.
- . Escuelas de arte a nivel primario.
- . Cooperativa en función de egresados y C. N. A.

1. 2

Comprender el objetivo o propósito de lo que hacemos, así podremos persuadir a cualquier persona.

1. 3

Clarificación del método necesario para poner en práctica el proyecto (I. S. A.) en las personas que lo realizarán.

1. 4

Análisis u observación de cada una de las etapas del proyecto y sus determinaciones para clarificar su totalidad.

1. 5

Reunir y estudiar todos los anteproyectos que se hayan elaborado para la creación del I. S. A. u otro Centro Superior de Artes creado anteriormente.

1. 6

Para la creación del I. S. A. se necesita hacer una investigación y conocer otras instituciones y el asesoramiento para su realización.

1. 7

Comparar el proyecto I. S. A. con proyectos y resultados en otros países.

1. 8

Es verdad o no que los oficiales del Ministerio no entienden el significado de Artes.

2

Qué repercusión tendrá el I. S. A. a nivel Nacional?

2. 1

Qué repercusión tendrá el I. S. A. a nivel Nacional?

2. 2

El I. S. A. debe ser con proporciones más amplias, que la de continuación de los estudios del B. A.

Tendrá repercusiones en, lo cultural y educativo de todo el país.

2. 3

Qué campo de acción tendrán los egresados del I. S. A. en la Sociedad Salvadoreña?

2. 4

El I. S. A. contribuirá al desarrollo industrial.

2. 5

Las necesidades a que respondería el I. S. A. son diversas a las de un taller Artesanal, por tanto deben verse como dos proyectos.

2.6

La creación del I. S. A. deberá ser una proyección en nuestro país y exteriormente.

3

Significación e importancia del I. S. A. en la Evolución Histórica de El Salvador.

3.1

Comprender el I. S. A. dentro de la evolución Histórico- Social.

3.2

Antes de resolver si hacemos o no el I. S. A. debemos determinar cuales son las condiciones económicas y el nivel educativo del salvadoreño.

3.3

Al plantearnos el proyecto I. S. A. deberemos basarnos en los siguientes aspectos:

Histórico
Cultural
Educativo
Económico

3.4

Siento que en la mayoría de los centros Artesanales hasta ahora visitados impera la pobreza y la miseria y ésta se refleja en los niños que desde temprana edad tienen que ayudar a sus padres en el trabajo a tal punto que el niño pierde esa calidad de infantil, la gracia del niño y se convierte en un niño adulto.

3.5

Debemos realizar el proyecto del I. S. A. en base a las necesidades más urgentes en educación para no trabajar por proyectos vistosos pero inútiles.

3.6

Las necesidades básicas que deben satisfacerse para que pueda haber arte son:

1. Trabajo
2. Alimentación
3. Vestido
4. Vivienda
5. Educación

3.7

Tomar en cuenta el medio en que se creara el I. S. A. es necesaria la creación de este, para un fortalecimiento artístico y cultural.

3.8

Que los proyectos se consideren en cuanto a satisfacción de necesidades y elevación del nivel de vida de la gente.

3.9

Para la creación del I. S. A. deberá considerarse la opinión popular, magisterial y estudiantil.

3.10

Los proyectos para la creación del I. S. A. no deben establecerse con fines en sí mismo, sino en relación con los demás sectores sociales.

3.11

Debemos trabajar siempre en unión y en función única de la comunidad y del país dejando de lado nuestras miras particulares.

3. 12

Contribuir al desarrollo cultural con más presentaciones artísticas, en exposiciones ferias, teatros, parques a nivel nacional e internacional por parte del I. S. A.

3. 13

Apreciación del carácter de lo nacional en la elaboración de objetos.

3. 14

Las tareas de conservación y preservación del Patrimonio Cultural urgen de creación de leyes de protección estatal.

3. 15

Enseñanza teórica:

- Valorización y ubicación del trabajo (Significación social)

4

Mejoramiento de la Educación salvadoreña a través de la reorganización de objetivos de los planes educativos del Centro Nacional de Artes, ahora con la creación del I. S. A. y su función social educativa en El Salvador.

4. 1

Mejorar y reconsiderar la educación impartida en el B. A. en función del egresado en nuestra sociedad.

4. 2

Desarrollar la capacidad manual y creativa por medio de las artesanías a las personas que trabajan en ellas y a toda la gente que quiera realizar este tipo de trabajo.

4. 3

El I. S. A. es necesario como una forma de especialización en la educación artística.

4. 4

Hace falta una educación artística en las escuelas que canalice lo imaginativo del salvadoreño en actividad creadora de objetos artísticos.

4. 5

El B. A. es parte del proceso educativo, al crearse el I. S. A. para que sea completo el proceso, se necesita la educación primaria elemental.

4. 6

Reforzar los planes de estudio de las escuelas libres, transformarlas en escuelas de experimentación en el diseño artesanal e industrial.

4. 7

- El egresado del I. S. A. debe orientarse a la educación, extensión y mejoramiento del campo artístico a nivel bachillerato.
- Egresado del B. A. debe capacitarse y orientarse a la docencia en el arte a nivel de segundo y tercer ciclo.
- Escuelas libres debe enfocarse a la docencia en el arte en el primer ciclo.
- Escuelas primarias no tienen clases de Arte.

4. 8

Debe haber continuidad en el aprendizaje recibido en el B. A. y el que se recibirá posteriormente en el I. S. A.

(Continuidad de estudios)

4. 9

Reforma educativa a nivel primario bachillerato y universitario.

Proyecto (especialidad Arte) con métodos ágiles y modernos.

4. 10

Reforzar las escuelas libres en especial la infantil, como base para estudios superiores.

4. 11

Solicitar asesoría de técnicos latinoamericanos para el mejoramiento de la educación salvadoreña.

4. 12

Necesidad de técnicos y especialistas en planificación educativa para la realización de proyectos.

4. 13

La enseñanza en El I. S. A. deberá ser investigativa y experimental, encausada a la docencia artística.

4. 14

Educar al salvadoreño concientizándolo en la preservación y conservación del patrimonio cultural, encausando los aspectos: artesanales, artísticos y culturales.

La dirección de artes deberá promocionar estos proyectos.

4. 15

La creación del I. S. A. fortalecerá el nivel artístico y educativo del país.

4. 16

Extender los conocimientos artísticos por medio de la T. V. E. a causa del desenfocamiento de la orientación hasta hoy dada.

4. 17

Encausar la enseñanza a nivel práctico al estudiante para que se desenvuelva mejor en su vida futura.

4. 18

Hacer un estudio y conocer el nivel educacional salvadoreño a causa de la baja preparación del estudiante y los métodos de enseñanza, antes de la creación del I. S. A.

4. 19

Es necesaria una Reforma Educativa basada en las necesidades presentes y futuras del pueblo salvadoreño.

4. 20

Hacer arte es más significativo que ver artes.

4. 21

Incrementar la educación artística en los hijos de los trabajadores.

5

Qué tipo de alumnos ingresarán al I. S. A. y cuál será su requisito?

5. 1

Qué personas serán las capacitadas para estudiar en el I. S. A. ?

5.2

Los grandes artistas no siempre nacen por crear un superior de Artes o Universidad.

5.3

Cómo y cuáles serán los requisitos de admisión del I. S. A. ?

6

Hacer un estudio económico y social para el financiamiento del proyecto(I. S. A.)

6.1

Hacer un estudio económico y social de los recursos con que se cuenta y comenzar el I. S. A. con esa base.

6.2

Investigación de los medios de producción disponibles actualmente para la realización del proyecto.

6.3

Diferenciar las necesidades del I. S. A. y un taller Artesanal.

6.4

Hacer estudio del financiamiento del I. S. A.

6.5

Escasez de aspirantes al I. S. A. viendo a estos como *contribuyentes* al financiamiento del mismo.

6.6

Es necesario crear un centro o Escuela Artesanal, sostenido por una cooperativa independiente del B. A. y del I. S. A. pero con beneficios para el B. A. y para la gran cantidad de artesanos de pocos recursos económicos, generación de nuevos medios de vida, incremento de los mismos en los diferentes Centros Artesanales del país.

6.7

Tratar de lograr un autofinanciamiento de los talleres.

6.8

Si no se tuviera la ayuda económica del Gobierno se debe buscar el medio para la obtención de la ayuda financiera.

6.9

Análisis de las fuentes de donde se puede obtener financiamiento.

6.10

El egresado debe compensar en parte los gastos hechos por el I. S. A. en él haciendo un año social.

7

Investigación de la fuerza de producción disponible, sus condiciones y necesidades.

7.1

Conocer las necesidades reales del país, valoración de los objetos artesanales economicamente y estéticamente.

7.2

Las necesidades económicas imperan sobre los valores estéticos de los objetos Artesanales, esto hace olvidar el valor auténtico de la obra.

7.3

Investigación de la fuerza de producción disponible, sus condiciones y necesidades.

7.4

- Estudio de las necesidades del país
- Estudio de la producción Artesanal Autóctona.

8

Busqueda de organismos o personas que indirecta o directamente tengan posibilidad de participación en El I. S. A.

8.1

Exigir al Ministerio de Educación, mayor integración de sus direcciones para echar a andar el proyecto del I. S. A. e integración de otros organismos que se relacionen en el que hacer artístico o tengan posibilidades de participar en él.

8.2

El proyecto para El I. S. A. deberá contemplar el trabajo conjunto entre organismos estatales o Instituciones privadas, entre ellos: INSAFI, Cámara de Comercio, Instituto Salvadoreño de Comercio exterior, Ministerio de Educación, Cooperativas, etc. y las condiciones que c/u de estos impondrán al trabajo.

8.3

Solicitar asistencia técnica y económica a Instituciones gubernamentales.

8.4

Proyecto de creación de un taller de Artes dentro de la Universidad Nacional con personal capacitado.

9

El I. S. A. deberá estar comunicado con otras instituciones del interior y Exterior a todo nivel.

9.1

Establecer comunicación con otras instituciones educacionales, nacionales e internacionales.

9.2

Necesidad de unificar el I. S. A. con otras instituciones educativas ya sea con los diversificados o con la Universidad. Ejem.

Bach. Industrial
" Vocacional

9.3

Conocer las experiencias educativas en la enseñanza artística en Centro y Latinoamérica.

9.4

Intercambio de profesores y alumnos con otros lugares artísticos de América.

9.5

Fomentar una relación más integral de las tres ramas artísticas del B. A.

9.6

Creación de un medio informativo de divulgación de las actividades del Centro.

10

Capacitar personal docente nacional para laborar en el I. S. A.

10.1

Capacitación del personal docente del B. A. y El I. S. A. a través de:
• Becas al exterior.
• Asesoramiento por parte de profesores extranjeros o nacionales capacitados.

10.2

Contar con personal capacitado nacional o extranjero que comprenda la importancia del I. S. A. en el desarrollo cultural y artístico del país.

10.3

Mayor experiencia del personal docente del C. N. A.

11

Crear talleres de investigación en el campo artesanal y artístico con orientación científica y con participación directa de bachilleres en artes, artesanos y otras personas que lo deseen.

11.0

Incremento de la Industria y las Artesanías.

11.1

Crear talleres de investigación en el campo artesanal y artístico con orientación científica, con anticipación directa de bachilleres en Arte y Artesanos.

11.2

La creación de un taller artesanal ayudaría a la creación del superior de Artes como ampliación de posibilidades, pero no como continuación del otro.

11.3

Rescate, conservación y desarrollo de las Artesanías ya existentes.

Creación de nuevos modelos sin la implantación extraña hecha hasta ahora.

11.4

Crear en principio un taller artesanal como base para el I. S. A.

11.5

Análisis de la producción Artesanal especificando su valor:

Económico
Social
Artístico
Estético

11.6

Creación de Centros o talleres para la tecnificación de núcleos o células artesanales en su lugar de origen.

11.7

Es necesario conocer primero todos los lugares productores de

artesanías y Artes populares, antes de pensar en una escuela de artesanías.

11.8

Las Artesanías tienen un valor educativo.

11.9

El proyecto deberá ser de auténtica ayuda y cooperación, y no con proyecciones de explotación.

11.10

El profesor en el taller artesanal debe ser del medio donde se desarrolla la artesanía, y no extranjero.

El alumno si puede ser extranjero.

11.11

Incremento del desarrollo, industrial técnico y económico, a partir del desarrollo Artesanal. Producción de divisas.

11.12

Necesidad de asesoramiento técnico en la elaboración de Artesanía mejorando su calidad.

11.13

La educación Artística se funda en las artesanías.

11.14

Investigación de los Centros de producción Artesanal en todo el país.

11.15

Investigación de un mercado para la venta de los objetos que se hagan.

11.16

Instalaciones físicas favorables al desarrollo de la labor educativa, artística o Artesanal.

11.17

Explotación de las posibilidades que ofrecería el desarrollo de las técnicas. A partir de una nueva utilización de la materia prima.

11.18

Crear un Instituto o unidad de Investigación de materiales.

11.19

Crear unidad de investigación en el campo Artesanal.

Sobre - Materia prima
- Formas

11.20

El I. S. A. promoverá la investigación de materias primas, y mejorará la utilización de las que actualmente se usan.

11.21

Necesidad de construir máquinas, que no existen para transformar la materia prima.

11.22

Aprovechar los recursos naturales no utilizados.

11.23

Crear un laboratorio para el análisis de materias primas y talleres donde se pueda experimentar.

11.24

Obtener las materias primas para desarrollar eficientemente las labores en la programación de clases.

11.25

Hacer una investigación a nivel nacional de los materiales con que se cuenta, para la realización de las diferentes manifestaciones artísticas y artesanales.

11.26

Aprovechamiento de las riquezas naturales del país.

11.27

Aprovechamiento de los desechos industriales en la elaboración de objetos funcionales y vendibles.

12

Especialidades que ofrecerá el I. S. A.

Predominio:

- Artística

Producción:

- Industrial

12.1

El I. S. A. debe abarcar todas las ramas artísticas.

12.2

En el I. S. A. debe haber predominio de la producción artística sobre la industrial.

A2

1

El I. S. A. será un Centro de formación artística y profesional en las distintas ramas de las Artes Plásticas y del Diseño en general para bachilleres en Artes Plásticas y del Diseño en General para bachilleres en Artes, y, aquellos que no siéndolo tengan capacidad suficiente para ingresar.

1. 1

Proporcionar educación profesional en ciertos campos de Bellas Artes a alumnos especialmente dotados. Materias como dibujo y pintura, escultura, alfarería, etc.

1. 2

Profesionalización en las distintas ramas de la especialización artística y del diseño en general.

1. 3

Mas posibilidades de educación superior para los que ingresen.

1. 4

El I. S. A. será la profesionalización del Bachiller en Artes, como de las personas que no siendolo tengan la capacidad artística para ingresar en el.

1. 5

Nuestro propósito debe ser formar profesionales eficientes aunque pocos y no bastantes ineficientes.

1. 6

Proporcionar el adiestramiento necesario a la juventud selecta salvadoreña en las diferentes artes visuales o plásticas útiles y necesarias en la sociedad moderna tales como los diferentes aspectos del diseño (exposición, gráfico,

industrial, textil, arquitectónico, enbellecimiento del paisaje, jardinería etc.) dibujo útil (mecánico y pictórico) como tambien artes de comunicación visual.

1. 7

La profesionalización del Arte.

1. 8

El I. S. A. es concebido como una Institución Educativa eminentemente experimental y dinámica.

1. 9

Para ser egresado del I. S. A. será necesario presentar como tesis (producto de una investigación) un proyecto propio personal o de grupo, cambiando así su auténtica profesionalidad.

1. 10

Será necesario al egresar del I. S. A. presentar una tesis o un proyecto propio personal o de grupo aplicado a una necesidad del medio

2

El I. S. A. profesionalizará a los profesores del C. N. A. y los de estética de todo el país, influyendo positivamente en la educación principalmente en el área básica.

2. 1

El I. S. A. será un Instituto de profesionalización del profesorado del C. N. A. como de los profesores de estética de todo el país.

2. 2

Adiestrar maestros competentes en Artes Visuales, Plásticas para prestar sus servicios en escuelas a nivel educacional secundario, cuyas necesidades para este tipo de maestro aumentan a medida que avanza la reforma educativa.

2. 3

La profesionalización del profesor de educación estética (artística-artesanal).

2. 4

El I. S. A. contribuirá también a la profesionalización del profesorado del C. N. A. y de todos los profesores de Estética del país.

2. 5

Promoción de la Educación Artística por parte del I. S. A., en los niveles básicos.
(1^o, 2^o, 3^o ciclos)

2. 6

Incrementará el desarrollo de la educación:

En general en todos los aspectos culturales.

En particular fomentando la educación estética en todos los niveles.

2. 7

Fomentará la educación como práctica de la libertad:

Educación artística

Educación estética.

2. 8

Por la capacitación a nivel superior.
Repercutirá efectivamente en la

educación integral del país.
Principalmente en las áreas básicas.

2. 9

Incentivará a la población escolar de 3er. ciclo a decidirse por la educación artística (A. Plásticas), por considerarla ya como una verdadera educación especializada.

3

Sea con el taller de diseño industrial o con el taller artesanal el I. S. A. contribuirá a la tecnificación y aumento de calidad del producto y sus productores.

3. 1

El I. S. A. contribuirá a la tecnificación y aumento de calidad del artesano y la artesanía.

3. 2

Aportará soluciones a la tecnificación de los centros artesanales.

3. 3

Velará por una elevación de la calidad del producto artesanal y de las personas que lo producen.

3. 4

Contribuirá a la tecnificación del artesano salvadoreño.

3. 5

Es necesaria una explotación regional del campo pero entendido como un gran desarrollo estético-artístico.

3.6

Debe crearse el taller de diseño industrial, para que aumente la calidad funcional-estética, del *producto industrial* y que este sea necesario a la comunidad.

3.7

El I.S.A. que en su formación funcionará parcialmente (posiblemente el taller de diseño industrial) influirá en la producción industrial aumentando la calidad en cuanto a lo funcional-estético.

3.8

En Diseño Industrial debe hacerse artículos, para la humanidad necesarios.
Maquinaria -utilitarios.

4

El I.S.A. esclarecerá la función del arte y artesanía, y establecerá las relaciones existentes entre ellos.

4.1

Determinar si los artesanos conocen la necesidad de relacionar su producto con las Bellas Artes.

4.2

El I.S.A. contribuirá a comprender la función del binomio arte-artesanía en el desarrollo industrial.

5

División de objetivo mediatos e inmediatos y tomar decisiones a partir de eso.

5.1

Para cualquier repercusión el proyecto I.S.A. dividirá sus metas en mediatas e inmediatas, para un trabajo mas objetivo.

5.2

Pensando en el proyecto I.S.A. y en base a sus necesidades inmediatas y mediatas debemos escoger las personas que serán becadas, (en qué y por cuanto tiempo y a donde).

6

Es necesario un registro de el tipo de trabajo y donde lo realizan los egresados del B.A. y saber su opinión respecto del I.S.A.

6.1

Es necesario llevar un registro de que tipo de trabajo y de donde están trabajando los egresados del B.A.

6.2

Dónde estan trabajando todos los hasta ahora egresados del B.A. ? (campo de trabajo).

6.3

Qué opinión tienen los egresados con respecto al I.S.A. ?

6.4

Censo sobre el I.S.A.:
Opiniones sobre su creación, objetivos, funcionales, repercusiones, etc.

7

El I. S. A. fomentará a través de la investigación científica, contando con una unidad especializada para ello, una búsqueda de identidad fundamentada en auténticos valores y luego buscar una integración de nuestra cultura a niveles universales.

7. 1

Integración de nuestra cultura a niveles universales luego de una identificación regional.

7. 2

Contribuirá a que se reconozca de que el salvadoreño es capaz de producir arte auténticamente salvadoreño.

7. 3

Resucitar a la población creciente como recurso creador.

7. 4

El I. S. A. contribuirá a la valoración nacional.

7. 5

Al descubrimiento de nuestro auténtico sentido estético como salvadoreño.

7. 6

Fomentará a través de la investigación científica, una búsqueda de identidad propia fundamentada en auténticos valores.

7. 7

Contará con un Centro de Investigación, que será promotor, fomentador, cultivador y defensor de la herencia cultural de la nación.

7. 8

Servir como Centro de Investigación de la herencia cultural de la nación, incluyendo varios tipos de artes y artesanías como también de artefactos antiguos, muchos de los cuales están destinados a desaparecer sino se les protege del curso que sigue la producción en masa industrial y de impacto que reciben de otras influencias culturales.

7. 9

El I. S. A. deberá ser a la vez de un Centro educativo superior, un centro de investigación de la fuerza de producción artesanal del salvadoreño y promotor del rescate, fomento y cultivo de las artesanías, con la búsqueda y utilización de los materiales que hasta ahora son desechados.

7. 10

El I. S. A. propende a través de la investigación científica la búsqueda de identidad estética fundamentada en auténticos valores salvadoreños para de ahí buscar la integración de nuestra cultura a niveles universales.

8

Debemos construir el I. S. A. a partir de nuestras posibilidades y esfuerzo propio, adquiriendo experiencia en un proyecto sin antecedentes, en el país dándonos así la posibilidad de hacer algo nuevo y productivo.

8.1

Debemos partir de nuestras propias posibilidades.

(Conocer nuestra realidad).

8.2

Debemos aprovechar todas las posibilidades que se nos presenten.

8.3

A Medida que vayamos trabajando (en el I. S. A.) iremos aprendiendo (del I. S. A.).

Vamos a ir tomando experiencia a medida que avanzamos en el trabajo.

8.4

La repercusión está en relación directa a lo que nosotros creemos o hagamos que repercuta, (lo que nosotros deseamos como repercusión).

8.5

La verdadera educación artística no se recibe de nadie, si no por esfuerzo propio del interesado históricamente ha sido siempre así.

8.6

Debemos desde ahora tener en mente (estar conscientes) el I. S. A. ya en funcionamiento.

8.7

Es necesario que alguien de nosotros comience a hacer funcionar los objetivos del I. S. A. (investigaciones o trabajo de los talleres, etc.).

Para fomentar poco a poco la participación activa de todos los sectores sociales en el I. S. A.

8.8

Hagamos un I. S. A. autónomo:

- a- Por todas las personas que consideran necesaria su existencia.
- b- Debemos planearlo por nosotros mismos.
- c- Toda la responsabilidad es nuestra.
- ch Deberá ser administrado por nosotros mismos (los interesados).

8.9

En nuestro país, donde no existen aún algunas Instituciones bien establecidas existe la posibilidad de crear algo nuevo.

8.10

Es necesario que el I. S. A. sea un Centro Educativo suficientemente flexible como para que pueda ir constantemente cambiando y mejorando de acuerdo a la manera de pensar y trabajar del alumnado y profesorado (del I. S. A.), que siempre trabaje investigativamente y experimentalmente.

9

El I. S. A. deberá informar continuamente al público de lo que hace interna y externamente y de la producción artística cultural (movimiento artístico cultural) de El Salvador y del mundo a través de todos los medios de información posible, así mismo fomentar la participación comunal en el desarrollo artístico del país.

9. 1

Informar al público continuamente de que es lo que hace.

9. 2

Hará extensivos a la comunidad los logros artísticos-culturales, a través de todos los medios de información posible fomentando así la participación comunal, en el desarrollo artístico.

9. 3

Contribuirá a la comprensión de la función del arte en la evolución cultural y económica de un país por parte del pueblo.

9. 4

Fundamentará lo cultural- artístico como parte del funcionamiento integral de la sociedad.

9. 5

Si pensamos que el Arte es algo útil para el pueblo (que tiene provecho para él) debemos comprobarle su positividad.

9. 6

Borrará el concepto (romántico, bohemio de lujo) errado que en El Salvador se tiene del Arte.

9. 7

Debemos estar conscientes de que aunque hagamos un magnífico I. S. A. pasarán algunos años para que el pueblo reconozca su función y valor. (es un objetivo a largo plazo)

9. 8

Promover el cultivo y la comprensión del arte en todos los sectores sociales por medio de charlas,

certámenes y exposiciones didácticas.

10

Regulación, asesoría y censura a través de la crítica especializada por todos los medios posibles, de la producción artística e información cultural serán funciones del I. S. A. basados en la búsqueda de identidad.

10. 1

Será un organismo que ejercerá la censura, a través de la crítica especializada que velará por que la información cultural y artística tenga una función de esclarecimiento.

10. 2

El I. S. A. contribuirá a la formulación de la crítica especializada en cuanto a la producción artística cultural del país.

10. 3

El I. S. A. deberá ser un organismo regulador de la producción artística (en cuanto a calidad)

10. 4

El CENAR mantendrá relaciones de regulación y asesoría de la producción artística en el país.

10. 5

Tendrá el CENAR más interrelación con Instituciones gráfico-informativas nacionales e internacionales.

10.6

El I. S. A. estará en contacto y mantendrá relaciones de asesoría con toda la producción visual en el país.

10.7

Contará con un organismo de censura que velará porque la información de todo tipo y que tenga una función de esclarecimiento cultural.

11

El I. S. A. deberá estar basado y construirse desde y para el nivel popular con participación de la comunidad en el desarrollo cultural-artístico, económico social.

11.1

Repercusiones del I.S.A.: vistas en una verdadera Educación Artística y desarrollo económico.

11.2

Dara oportunidad de participación a la comunidad en el desarrollo social, económico y cultural del país.

11.3

El I. S. A. fomentará el desarrollo positivo del país en todos los niveles: cultural-artístico-económico-social.

11.4

Fomento del desarrollo cultural-artístico, económico-social con participación de la comunidad.

11.5

El I. S. A. deberá estar basado y construirse desde y para el nivel popular.

11.6

Debemos corresponder a las verdaderas necesidades populares.

11.7

El I. S. A. debera estar basado y construirse desde el nivel popular.

11.8

El ingresante al I. S. A. deberá tener una preocupación auténtica en el aprendizaje de su profesión con miras a un futuro cultural positivo fundamentado popularmente.

11.9

Necesidad de la creación del I. S. A. como un esfuerzo de solventar nuestro futuro.

12

Los primeros alumnos del I. S. A. pueden ser los egresados del B. A. y luego extenderlo a gente de todos los sectores sociales, además será importante en cuanto a la ubicación y estabilización del B. A.

12.1

Por un período necesario que el primer grupo de alumnos del I. S. A. lo compongan los profesores del actual C. N. A., y los egresados

del B. A. que trabajan en la Televisión Educativa, Museo Nacional, Dirección de Publicaciones, Casas de la Cultura, y esperar un tiempo prudencial para recibir mas gente de todos los sectores sociales.

12.2

Es necesario que los profesores del B. A. a la vez de estar enseñando sean durante el período de su especialización alumnos del I. S. A.

12.3

En principio que el primer grupo de alumnos sean egresados del B. A. y luego extenderlo a más gente de todos los sectores sociales; los egresados docentes en el B. A. pueden ser al mismo tiempo alumnos del I. S. A.

12.4

El I. S. A. contribuirá a una mejor ubicación del B. A. estabilización de sus programas, y podrá obtener personal docente capacitado.

12.5

El Bachillerato en Artes Plásticas podrá obtener personal decente más capacitado.

12.6

El nivel del bachiller en Artes será mejor ubicado dentro del contexto educativo nacional.

12.7

El I. S. A. contribuirá a la estabilización de los contenidos programáticos del B. A. si se encause el I. S. A. a la formación profesional.

1

El diseño practicado en el T. E. D. I., deberá ser para satisfacer necesidades del salvadoreño de la mejor manera posible. Este es un planteamiento del T. E. D. I. de lo que puede hacer el arte en El Salvador.

1. 1

El diseño practicado en el T. E. D. I. deberá ser para satisfacer necesidades del hombre salvadoreño en su contexto de la mejor manera posible.

1. 2

El diseño participa en la vida del hombre.
En lo social, económico, cultural, estético.

1. 3

El diseño afecta lo personal, lo social, lo económico, lo cultural.

1. 4

El diseño mantiene contactos directos con la comunidad e influye a esta de sobremanera.

1. 5

El diseño a través de todas sus manifestaciones esta presente en el desarrollo de nuestra vida.

1. 6

No existe un estudio y práctica canalizada del diseño y mucho menos una comprensión de su función.

1. 7

Conceptos base del T. E. D. I. :
Creatividad
Sencillez
Utilidad

-Funcionabilidad
-Economía
-Fácil ejecución
-Estética

1. 8

Al estar en funcionamiento al T. E. D. I. es necesario que existan clases teóricas para mayor comprensión del desarrollo de las formas elaboradas manualmente.

1. 9

Diseño de objetos funcionales para el hombre salvadoreño. (nuestro contexto)

1. 10

El espacio que habitamos, los objetos que nos rodean, que usamos, raras veces estan concebidos pensando en que son para el hombre (en determinado contexto el nuestro)

1. 11

El taller partirá de lo existente: una necesidad, y lo necesario; las formas de resolverla, el diseño.

1. 12

El T. E. D. I. trabajará en base a las necesidades vitales, que puedan ser resueltas por medio del diseño para el salvadoreño.

1. 13

Para elevar el nivel de vida del salvadoreño, diseño de objetos a utilizar en la casa.

1. 14

El área de trabajo será, en este taller en diseño integral.

1. 15

El producto a desarrollar en el T. E. D. I. deberá ser planteado para satisfacer necesidades diarias, con el fin de promover mejor los objetos utilitarios.

1. 16

Qué puede hacer el arte en El Salvador.

1. 17

Comprender lo que hacemos y que significado tiene a niveles universales.

1. 18

Para qué sirve el arte en nuestro país.

1. 19

El trabajo del taller no será puramente técnico y alejado del arte. Llevará el objetivo de descubrir lo que el arte pueda hacer en El Salvador.

1. 20

Su diseño deberá estar basado únicamente en las necesidades básicas de comodidad que deben existir en un hogar salvadoreño.

1. 21

Lo comercial, como tal en el Diseño existe como fin en si mismo.

2

El T. E. D. I. a través del laboratorio de investigación de materias

primas para estudios tendientes a aprovechar los materiales no utilizados y aumentar las posibilidades de aquellos que se utilizan, en la elaboración de objetos.

2. 1

El T. E. D. I. tendrá como base de trabajo el laboratorio para el análisis de materias primas.

2. 2

El taller-laboratorio de diseño será un centro de investigación de los materiales hasta ahora no utilizados de sus diversas posibilidades de moldeado, y utilización para la elaboración de objetos que vengan a resolver necesidades inmediatas del salvadoreño.

2. 3

El T. E. D. I. se propone aprovechar todos los recursos humanos y materiales de nuestro medio.

2. 4

Es necesario hacer una lista de materiales que se producen en gran abundancia y son desechados por no conocerseles ninguna utilidad, la labor del T. E. D. I. será precisamente el buscar todas las posibilidades de trabajo y uso de estos materiales.

2. 5

Aprovechamiento de materiales no utilizados (recursos naturales). Materia prima. Para manufacturar objetos.

2. 6

Aprovechamiento de los recursos naturales no utilizados.

2.7

Objetivos: aprovechamiento de los desechos industriales en la elaboración de objetos funcionales y económicos.

2.8

El T. E. D. I. también buscará nuevas posibilidades de uso y trabajo a los materiales actualmente utilizados, contribuyendo así por medio del taller artesanal a que el artesano utilice mejor sus materiales y mejore así su producción y economía.

2.9

El taller de diseño tendrá como base de trabajo el laboratorio para el análisis de materias primas, y la obtención de los materiales utilizables en las clases prácticas del departamento de Artes Plásticas en sus diferentes talleres y en todos sus niveles de estudio incluyendo el futuro. I. S. A.

3

El T. E. D. I. funcionará como un detector de necesidades a nivel nacional en el campo de la producción de objetos utilitarios, artesanales, artísticos e industriales proyectando soluciones adecuadas a través del diseño mejorando su calidad estética, económica y de uso.

Los diseños se proyectarán en base a prioridad de necesidades y a nuestra capacidad de solución será además la base de otros talleres similares que surjan en el país y principalmente la base dinámica del I. S. A.

3.1

El T. E. D. I. como detector de necesidades del país, y proyector de las mejores soluciones a través del diseño.

3.2

El T. E. D. I. se construye sobre bases precisas que atienden a las necesidades del país.

3.3

En el taller se para la investigación no como un fin en si mismo sino con objetivos claros y respondiendo a necesidades concretas en nuestro país.

3.4

De fundarse y ponerse en práctica el T. E. D. I. deberá ser encauzado con propósitos prácticos, donde se puedan desarrollar formas que satisfagan necesidades propias de los salvadoreños.

3.5

Soluciones, lo menos rudimentarias empíricas e intuitivas posibles. Soluciones, creativas, científicas y objetivas.

3.6

Partir de la necesidad a todas las soluciones posibles, y no lo contrario.

3.7

El T. E. D. I. debe ser con proyección nacional.

3.8

Las necesidades se clasificarán en base a prioridades.

3.9

La sociología, la psicología, la antropología, trabajan en base a lo existente, el arte es creación y trabaja sobre nuevas experiencias.

3.10

Creemos que si es necesaria alguna manera que existan las escuelas o institutos en las diversas especializaciones del diseño, y que se den de acuerdo a las distintas necesidades del nivel cultural, económico del país, al que pertenezcan estas escuelas, pero consideramos necesario en este país del profesional formado del diseño integral que propone.

4

Como dentro de los objetivos del T. E. D. I. están la investigación de nuevas posibilidades del uso de los materiales no utilizados experimentará sobre la creación de nuevos modelos, basados en las exigencias propias de nuestro país, evitando la copia de diseños extranjeros. Colaborará con el taller artesanal como asesor técnico y en calidad de auténtica cooperación y ayuda para este taller y los diferentes centros artesanales del país.

4.1

Entre los objetivos de este taller estarán: creación de nuevos modelos basados en las exigencias propias de nuestro país y para nuestro país, evitando la copia de diseños extranjeros.

4.2

El proyecto deberá ser de auténtica

cooperación y ayuda para los diversos centros artesanales y artesanos existentes en el país y no con miras de explotación.

4.3

Las artesanías como un medio de subsistencia (valor económico) debe ser desarrollada técnicamente, produciendo objetos que no solo sean de carácter utilitario sino que tiendan a crear valores estéticos o bien decorativos.

4.4

Mediante el estudio sistematizado en la creación del T. E. D. I. es necesario conocer los recursos humanos salvadoreños, que puedan participar abiertamente trabajando en las artesanías y en el rescate de los mismos conservando los rasgos propios.

4.5

Las fuerzas productivas artesanales no están orientadas positivamente.

4.6

Deberá hacerse un estudio de todas las artesanías que se producen actualmente en El Salvador, con su correspondiente clasificación como objetos utilitarios y esto con el fin de que sean utilizados como objetos del hogar.

4.7

Objetivos: Incremento en el desarrollo industrial, artístico, y técnico y económico a partir del desarrollo artesanal de un auténtico gusto estético salvadoreño.

4.8

Creemos que con todas las artesanías que se producen en el país es

posible cubrir casi todas las necesidades de objetos utilitarios del hogar y hasta decorativos.

4. 9

La producción del artesano debe procurarle mejores condiciones de vida.

4. 10

Objetivos: rescate, conservación y desarrollo de las artesanías y artes populares ya existentes. (Estos son objetivos del taller artesanal).

4. 11

Existe potencia creadora no realizada en el salvadoreño.

4. 12

El trabajo.

Será específico y adecuado a resolver problemas existentes en los centros productores de objetos: utilitarios y decorativos en el país, después de la investigación en sectores artesanales.

4. 13

El T. E. D. I. buscará solución a problemas que se dan en la producción de objetos artesanales en principio (calidad y función de estos).

5

Aprovechar experiencias realizadas en otros lugares en el mismo proyecto y hacer intercambio de experiencias. Hacer viajes de observación, información en el área de México, C. A. y Panamá.

5. 1

Viajes de observación, información y de proyectos similares al T.E.D. I. en el área de México, C. A. y Panamá, y buscar relaciones de intercambio de experiencias en beneficio mutuo.

5. 2

Aprovechar las experiencias realizadas en otros lugares en proyectos similares.

6

El T. E. D. I. para elevar el nivel de conocimientos y capacidad de trabajo de todos sus participantes contará con un cuerpo profesional de asesores, estos se elegirán de acuerdo a las necesidades propias de los proyectos, y podrán ser primero salvadoreños del área centro y latinoamericanos, luego podrá pensarse en Europa, Asia, EE. UU, etc.

6. 1

Contará para elevar el nivel de conocimientos con un cuerpo de asesoramiento para la mayor capacitación profesional de todos los participantes, ya que este (el taller) será también el vivero del personal para el I. S. A. u otros centros similares que se creen posteriormente en el país.

6. 2

La asesoría será solicitada a medida que surjan las necesidades en los proyectos que se vayan realizando. Además, de acuerdo al plan gene-

ral de todo el proyecto deberá pensarse en los profesionales (técnicos-profesores asesores que vendrán, por cuánto tiempo y en qué condiciones.

6.3

De acuerdo a sus objetivos el cuerpo de asesores, deberá ser básicamente formado por profesionales salvadoreños, después latinoamericanos, y luego extranjeros; todos ellos con funciones específicas y por un período limitado de acuerdo a las necesidades que surjan del taller.

6.4

Asesoría : salvadoreños de países del área Mexico-Centroamérica y Latinoamérica, en general; luego podría pensarse en personal de Europa, Asia, EE. UU.

6.5

Los profesionales asesores podrían ser en las siguientes disciplinas:

- Diseño: industrial, comercial y Arquitectónico.
- Ingeniería
- Sociología
- Antropología
- Etnografía
- Planificación y organización de la producción.

7

Solicitud de becas de especialización para docentes del B.A. o egresados trabajando en otras Instituciones, que al regresar trabajarían en el T. E. D. I., por un período no menor de un año para luego

trabajar en el I. S. A. con más capacidad. Posibles países adonde se solicitarán becas: Francia, Italia, Japón, Holanda, etc.

7.1

Dentro del proyecto de Asesoría se considera la solicitud de becas de profesionalización para docentes del B. A. ó egresados trabajando en otras Instituciones.

7.2

Los favorecidos con becas de profesionalización, deberá trabajar en el T. E. D. I. por un período no menor de un año, para después integrarse a trabajar en el I. S. A. (Los que hayan salido al extranjero en calidad de becarios).

7.3

Con la experiencia del (exterior) del becario en el T. E. D. I., el I. S. A. obtendrá personal más capacitado, trabajando de acuerdo a la realidad salvadoreña.

7.4

Posibles países a los cuáles solicitaremos becas:

Francia,	Japón,
Italia,	Suecia,
Canadá,	Suiza.
Inglaterra,	
Alemania,	
Holanda,	

8

El financiamiento del T. E. D. I. puede ser a través de asignación presupuestaria ó como cooperativa formada por los integrantes del taller y los participantes en los

experimentos, que deseen pertenecer a ella. Creemos que en la planificación del financiamiento, la adquisición de un pick-up o camión se hace indispensable para las investigaciones del campo.

8. 1

El financiamiento del T. E. D. I. puede ser a través de asignación presupuestaria gubernamental ó como cooperativa formada por los integrantes del taller y por los participantes en los experimentos que deseen pertenecer a ella.

8. 2

Financiamiento
Asignación presupuestaria para el pago del personal, compra fabricación y mantenimientos del equipo y materiales.

8. 3

Financiamientos a través de cooperativas formada por los integrantes del T. E. D. I., y de todos los participantes en los experimentos que deseen pertenecer a ello.

8. 4

Cuánto dinero se solicitará al Ministerio de Educación y de que manera solventaremos lo económico que no pueda aportar el M. E.

8. 5

Como parte del equipo que se incluye en el financiamiento del taller, se hace ver la necesidad de un pick-up ó camión para investigaciones de campo.

8. 6

Dentro del equipo del T. E. D. I. necesita de un vehículo (camión pequeño, pick-up ó en su defecto un jeep), además de utilidad al taller servirá también a los fre-

cuentos trabajos de exploración y reconocimientos que actualmente realiza el B. A.

8. 7

Para las investigaciones de campo de 1 semana como minimo, será de vital importancia un camión pequeño ó pick-up, para el transporte del personal, materiales y herramientas para trabajar en el lugar de investigación (con chofer).

9

Qué personas, cuántas, con qué capacidad, y en qué condiciones trabajarán en el T. E. D. I., cuál será su organización y dirección. Se sugiere una estructura horizontal. El T. E. D. I. deberá ser algo nuevo en el país con proyección hacia el futuro. (estructura, métodos, trabajo, producción)

9. 1

Qué personas, cuántas, con qué capacidad y en qué condiciones trabajarán en el T. E. D. I. igual será su organización y dirección. Se sugiere una estructura horizontal.

9. 2

El T. E. D. I. necesita una estructura horizontal y no vertical.

9. 3

El T. E. D. I. será algo nuevo en el país con proyección hacia el futuro (metodos, trabajo, estructura, proyección, etc.)

9.4

El T. E. D. I. deberá ser algo nuevo en el país (métodos, trabajo, proyección, etc.)

9.5

El T. E. D. I. debe construirse con proyección al futuro.

9.6

Personal de laboratorio a escoger entre los 30 personas que componen el personal docente del Departamento de Artes Plásticas, básicamente serán 6 personas directrices del proyecto.

9.7

Del método.

Fechas límites para el trabajo o trabajos específicos distribuidos entre los participantes, cuántas personas trabajarán y que capacidad tienen.

9.8

Cuántas personas deberán comenzar.

Laboratoristas y desde cuando.

9.9

Para la realización y planeamiento de cada proyecto deberá elegirse a un jefe *del proyecto* de entre seis personas que constantemente trabajan en el taller.

10

El trabajo del T. E. D. I. será en base a la investigación científica experimental y su estructura será fundamentada en esto, el trabajo

será de co-aprendizaje entre sus integrantes y en forma conjunto.

10.1

El trabajo del T. E. D. I. será de co-aprendizaje de sus participantes. Aunque las ideas y diseños básicos surjan individualmente, el trabajo de análisis y realización será conjunto, se harán sesiones periódicas para análisis de los proyectos en todo su proceso fundamentado en una investigación práctico-teórico.

10.2

Habrá co-aprendizaje e intercambio de experiencias entre los participantes.

10.3

Aunque las ideas y diseños básicos surjan en forma individual el trabajo de análisis y realización de las obras, deberá ser conjunta, en equipo atendiendo a las exigencias propias del diseño.

10.4

Sesiones periódicas en la proyectar-realización, y como producto acabado de los diseños para análisis de creatividad, originalidad, funcionabilidad, calidad del producto y buena utilización de los materiales, etc.

10.5

Dentro del T. E. D. I. es necesario que exista un estudio de investigación, tanto práctico como teórico para solventar problemas no previstos.

10.6

Que los participantes conozcan el país, detectando necesidades y aumentando experiencias y capacidades.

Conocimiento del campo de trabajo.

11. 1

10. 7

El trabajo del T. E. D. I. atenderá a principios básicos; adiestramiento, experimentación y detección, trabajará en base a la investigación científica experimental y con una estructura fundamentada en esto para ello será necesario el trabajo objetivo de campo de sus participantes.

El T. E. D. I. es base, pauta y parte del proyecto I. S. A., tendrá enlace con este y con el B. A. los participantes mismos del taller podrán recibir credenciales de asistencia para ser consideradas en el I. S. A. institucionalizado.

11. 2

10. 8

Adiestramiento, experimentación y detección.
Conceptos importantes a tomar en cuenta en el trabajo del T. E. D. I.

El T. E. D. I. es base y pauta para el I. S. A.

11. 3

10. 9

El taller para su funcionamiento y orden, trabajar en base a la investigación científica experimental.

El T. E. D. I. debe ser considerado como parte del proyecto I. S. A.

11. 4

10. 10

La estructura debe ser propia para un taller-laboratorio y no la de una escuela o colegio.

El T. E. D. I. deberá funcionar por sí mismo, pero como punto de enlace con el I. S. A. y el B. A. para poder crear bases válidas en el desarrollo del diseño y el desarrollo práctico del mismo.

11. 5

10. 11

El trabajo de taller es dinámico y lo menos burocrático posible.

Por ser de carácter experimental los alumnos asistentes podrán recibir credenciales de asistencia, durante el período de estudio para considerarse posteriormente como candidato cuando se realice el proyecto total del I. S. A. como institución formativa a nivel superior con objetivos precisos.

11. 6

11

El T. E. D. I. es base, pauta y parte del proyecto I. S. A., tendrá enlace con este y con el B. A. a esto contribuirá que funcionará en el mismo espacio físico del CENAR. Sus participantes podrán recibir credenciales de asistencia, a considerarse en el I. S. A. institucionalizado.

El T. E. D. I. tendrá sus instalaciones en el mismo espacio físico del CENAR y además funcionará contiguo al taller artesanal, para el uso mutuo de algunas herramientas e intercambio de algunas experiencias.

11. 7

El T. E. D. I. funcionará en el espacio físico del C. N. A.

11.8

El T. E. D. I. y el taller de investigación artesanal funcionará en la misma planta física y a veces con utilización mutua de algunas herramientas.

11.9

El taller de diseño (T. E. D. I.) funcionará en el espacio físico del Bachillerato en Artes (C. N. A.).

11.10

Crear o pensar en el espacio físico que ocupará el T. E. D. I. en el CENAR, para desarrollar prácticas, este espacio deberá ser lo suficientemente amplio, que preste las condiciones mínimas por lo menos.

12

Considerando que el T. E. D. I. será de carácter experimental (laboratorio) partirá como base de los propios conocimientos, capacidades y será un lugar de adiestramiento y práctica para bachilleres en Artes, que hayan estado becados o que tengan experiencia profesional o docente de por lo menos un año. Así como los alumnos de Tercer Año del B. A. en su trabajo de Graduación, cuando así lo necesiten.

12.1

Considerando que es un taller de carácter experimental (laboratorio) las personas que asistan serán Bachilleres en Artes y especialmente aquellos que tengan alguna experiencia en el campo docente ya

sea dentro del CENAR o fuera de éste.

12.2

En su fase como laboratorio las personas que trabajen en el T. E. D. I. podrán ser bachilleres en Artes de preferencia con experiencia docente dentro o fuera del CENAR.

12.3

Como experimento el T. E. D. I. debe efectuarse con el personal del Depto. de Artes Plásticas.

12.4

Brindará adiestramiento al futuro profesor del I. S. A. é incluse al del B. A.

12.5

Adiestramiento a las personas que trabajen en el CENAR, y mejoramiento de su capacidad.

- Este es uso de los objetivos.

12.6

El T. E. D. I. deberá aceptar gente que tenga referencias previas en el manejo de herramientas y agilidad en el desarrollo de problemas artesanales.

12.7

El T. E. D. I. podrá ser utilizado por los estudiantes de Tercer Año de Bachillerato, que así le deseen al realizar su trabajo final de graduación.

12.8

Para esto, partirá de las propias posibilidades (conocimientos) de los participantes que serán en un principio, el personal del Departamento de Artes Plásticas del

CENAR y todos aquellos egresados que desean integrarse activamente en los diferentes proyectos que presente el taller.

13

Algunos de los proyectos a realizar por el T. E. D. I. :

- El diseño del taller mismo.
- Casa de habitación construida con recursos de nuestro medio, al menor costo posible y para el salvadoreño.
- Herramientas a utilizar.
- Papel.

13.1

El diseño del taller deberá ser en forma económica.

13.2

Proponer el taller de diseño con la elaboración de una casa de habitación al menos costo posible.

13.3

La decoración y muebles serán de materia prima, transformada netamente salvadoreña.

13.4

Existe la posibilidad de hacer máquinas que transformen nuestra materia prima.

13.5

Proyectos del T. E. D. I.
Fabricación de papel de calidad resistente y debajo costo utilizando como materia prima el tallo de higuierillo, y corteza de amate, inicialmente con asesoría del profesor T. Kurokawa.

13.6

Uno de los primeros diseños deberá ser, también el diseño de las herramientas a utilizar y fabricar los que podamos hacer nosotros mismos, para ello deberemos conocer el funcionamiento y su uso básico de la maquinaria a utilizar.

14

Al hacer los preparativos deberemos tomar en cuenta el período de funciones del T. E. D. I. y además que el proyecto requerirá objetivos claros, objetividad de las necesidades, método verificación de resultados, registro de las repercusiones, todo esto como base para nuevos proyectos. Al personal de Artes Plásticas deberá participar en los preparativos.

14.1

Es conveniente que el taller de diseño integral funcione en período de vacaciones, como taller de verano.

14.2

Decidir cuanto tiempo utilizaremos de las vacaciones.

14.3

Es conocimiento que el taller comience a laborar en período de vacaciones, como taller de vacaciones.

14.4

Es conveniente que el taller inicie sus labores en períodos de vacaciones. Especificar cuanto tiempo se empleará tanto en vacaciones como posteriormente.

14.5

Es conveniente que el taller comience a funcionar en el periodo de vacaciones.

14.6

Es necesario comenzar lo más pronto posible los preparativos.

14.7

Con el propósito de hacer los preparativos del proyecto y de informar al personal docente del departamento de Artes Plásticas tomaremos un día completo de la semana.

14.8

Debemos comenzar lo más pronto posible los preparativos, como parte de ello debemos efectuar una sesión informativa con todo el personal de Artes Plásticas.

14.9

Podemos y debemos pensar desde ahora cuanto tiempo funcionará el proyectado taller antes de ser posible el I. S. A.

14.10

Pasos dentro del proyecto:

- Objetivos claros.
- Objetividad de las necesidades.
- Que y cómo se hará.
- Verificación de resultados.
- Registro.
- Publicación.
- Repercusión.

Tomar en cuenta en este a las personas afectadas.

14.11

Objetivos claros.
Objetividad de las necesidades.
(detectar con precisión)
Qué es lo que se hará.
Cómo lo vamos a hacer.

14.12

Verificación de los resultados
Registro
Publicación
Repercusiones, pautas para nuevos proyectos.

14.13

Como afecta a las personas sujetos del proyecto, el modo de realizarlo. Qué piensan de ello.